

文殊菩薩座像

文殊菩薩は知恵を擬人化した存在であり、足を組み、穏やかな表情を浮かべ、右手には神聖な剣を持っている。通常、中国の獅子の上に座った姿で描かれる文殊菩薩は、仏陀の弟子たちの中でも最も賢い者だったと考えられている。文殊菩薩が持っている剣は普通の武器ではない。これはむしろ、ヴァジュラと呼ばれる儀式のための用具と関連がある。ヴァジュラは、宝石をちりばめた棍棒の一種で、仏教の知恵を浸透させる力を象徴している。ヴァジュラは幻想や妄想を切り裂き、無知な魂を光で照らし出す。仁和寺の像にはないが、獅子は仏教の力や仏法の吠えるような強い声を象徴している。この文殊菩薩は、かつては左手にも何かを持っていた。それは蓮の花の茎か、椰子の葉に経を書き記した「梵経」だと考えられているが、それはすでに失われて久しい。仁和寺の他のいくつかの仏像の同じく、この像も重要文化財に指定されており、日本の仏教美術の発展に光を当てる存在である。やや世俗的な姿での表現は言うまでもなく、文殊菩薩の胴体とその衣服の飾りの彫刻との関係は、宋代（960～1279年）の中国からの重要な影響を示唆している。しかしながら、彫りによって表現した目の部分（宋代の彫刻では水晶やガラスの目をはめ込んでいるものが多い）など、その他の部分には、より古い時代の彫刻技法が現れている。さらに、他の時代や地域の伝統の影響が現れている部分もある。